

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①SSH 事業を計画実施し、探究的な学習や活動を通して様々な課題を解決し、社会に貢献しようとする強い意志を持った生徒を育てる。</p> <p>②国内外での多様な関わりの中で、情報活用能力、問題発見能力、論理的思考力等の資質・能力を向上させることにより視野の広い生徒を育てる。</p>	<p>①SSH 指定校として「共創探究」の実施による課題研究の高度化を図るとともに、すべての教科で探究的な学びを推進し、生徒に身につけさせたい資質・能力を測定する評価方法を作成し実施する。</p> <p>②左記の資質・能力を育成する学校行事計画を作成及び行事を運営し、生徒会活動を支援する。</p>	<p>①すべての教科において探究的な学びを実践し、「共創探究力」及び「論理的思考力」または「情報活用能力」を測定する課題を設定し、評価する。</p> <p>②行事や生徒会活動において、生徒主体となる組織的運営方式により、左記資質・能力を向上させる支援を行い、教科外活動の充実を図る。</p>	<p>①授業評価アンケートの項目3「単元(内容のまとまり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。」の評価4(最高評価)が50%以上。</p> <p>①資質・能力を測定するための課題設定及び評価を各教科で年1回以上実施。</p> <p>②アンケートで、「充実した教科外活動ができたか」に対して肯定的な回答90%以上。</p> <p>②各行事後の振り返りで、左記資質・能力が向上したと回答した生徒70%以上。</p>	<p>①授業評価の項目3について評価4の割合は全体で51.5%であり指標の50%を上回った。</p> <p>①12月に公開研究授業で資質・能力を測定する単元設定及び評価を実施した。</p> <p>②魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートは現在集計中。</p> <p>②各行事で左記資質・能力が向上した(1～5段階で4,5の回答)と答えた生徒の割合は体育祭(410件)44%,50%,43%、文化祭(403件)54%,65%,58%、合唱コンクール(218件)38%,56%,46%。</p>	<p>①すべての教科で通年で資質・能力を測定する課題や評価の設計を行い、探究的な学びを推進する組織体制や職員研修を構築する。</p> <p>①SSH 事業推進に向けて校内の組織体制の改善を行い、生徒がより外部と連携して探究活動に取り組む体制を構築する。</p> <p>②アンケートの回答数を増やすために、SHRやLHRでの回答呼びかけを強化する。</p> <p>②生徒のメタ認知不足も考えられる。それぞれの行事において資質能力が向上する活動例を具体的に例示するなどをしていく。</p>	<p>○公開研究授業の実施後の振り返りアンケートの件数が少なく、分析が不十分である。実施した事業に対する振り返りや各教科で行い、それをとりまとめて職員で共有するという取り組みができなかった。</p> <p>○目標が共有化され、方向性や思いが同じだとアンケートに自然と答えたくなる。実施時期や周知方法の改善をすること。</p> <p>○組織体制の改善は、振り返りやアンケートの分析をもって改善するものである。今後、学校全体で取り組んでいく体制づくりを実現すること。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケート結果については指標を上回ったが、その分析を各教科で行い、それをとりまとめて職員で共有するという取り組みができなかった。</p> <p>②各行事で資質・能力をみとめるアンケートをおこなったが、回答した生徒の振り返りアンケートの回答率が低い。</p>	<p>①組織的な授業改善を各教科で推進するという意識の変容を促す仕組みの構築を行う。</p> <p>②身につけさせたい力について、どういうことができるようになるのかという分かりやすい表現で生徒に伝え、生徒が振り返りをしやすくなる工夫をする。アンケート回答時間を確保する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①心身を健やかに保ち、自己理解及び他者理解ができる生徒を育てる。</p> <p>②部活動の活性化を通して責任感や連帯感の意識を涵養する。</p>	<p>①・生徒の悩みや困難の早期把握・解決に向けて、外部機関等との連携を効果的に行い、支援の充実を図る。</p> <p>・自主自律の学校目標の下、社会的マナーや生活規律を確立させる指導を行う。</p> <p>②部活動に対して生徒が責任を持って取組み、他者との協働意識を高く持てるように支援する。</p>	<p>①「かながわ子どもサポートドック」の取組みを、学年団と協力して推進し、SC・SSWとの連携を強化し、組織的な支援を行う。</p> <p>①全校集会やHR等において、自転車通学や公共交通機関乗車時マナー、挨拶励行などについて考えさせる指導を行い、地域社会の一員として他者に親切に接することの大切さを自覚させる。</p> <p>②部長会を定期的で開催し、部活動に関する課題解決について各部が相互に意見交換し考えることのできる場を設定する。</p>	<p>①困難を抱える生徒の早期発見ができたか。</p> <p>①学年団およびSC・SSWと連携して効果的に支援し、必要に応じて外部へつなげることができたか。</p> <p>①生徒の自律的態度が定着し、近隣住民等の外部評価が向上したか。</p> <p>②部長会を定期的で開催できたか。</p> <p>②部長会を通して得られた情報をもとに、各部が自ら課題を設定し、改善策を提案・実行したか。</p>	<p>①年2回のかながわ子どもサポートドック、通常教育相談を経て、外部機関と連携を取り、継続的に支援している。</p> <p>・アンケートに記述欄を設け、個々の状況把握に努めた。</p> <p>・相手のある自転車事故件数は4件</p> <p>・自転車及び公共交通機関乗車マナーに関する苦情11件。</p> <p>②生徒会本部が主導で部長会を開いたことで、生徒会本部と部活動と一緒に学校生活をより良くしていく姿勢が育まれた。</p> <p>・部長会において、生徒会規約の変更について主体的に協議することができた。</p>	<p>①毎回の面談の調整が難しい。長期間に渡り個別の対応を必要とする案件が増えている。外部との連携に加え、学校が関与できる範囲を専門家と見極めながら、生徒への支援を継続する。</p> <p>・自転車及び公共交通機関乗車マナーについて、HRや各種集会を通じて指導を継続する。</p> <p>②運営に問題があった部には、生徒会本部が部活動の制限を設けるなど生徒主体の運営を行えるよう指導する。部長会や部のミーティング等を通じて、集団行動をする際のあるべき姿を主体的に考えさせる。</p>	<p>①誰一人取り残されない、こころ・からだ・学びを守るのが公立学校の使命である。課題が複雑多様化している時代であり、学校だけで解決できるものではない。教育委員会や地域の資源等を活用して取組を進めていくこと。</p> <p>②生徒が懲罰主義に陥ることなく、例えば、生徒のミーティング技術を高めるような機会を与えるなどの工夫をすること。</p> <p>②部員同士の人間関係の構築がうまくいかず、解決に向けて教員の支援が必要となったケースが生じた。</p>	<p>①多様なケースに対応するため事例検討や研修を随時行うなどして対応のスキルアップを図る。</p> <p>②教員間で事例を共有し、事例検討をするなどして適切なきに適切な支援を行うことができるように対応力のスキルアップを図る。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①より高いレベルの進路実現に向け、持続的に力を尽くすことのできる生徒を育てる。 ②何事にも果敢に挑戦する態度を育み、社会をけん引することのできる、未来を拓くリーダーを育てる。	①生徒の学習状況を細かに把握するとともに、必要な情報を適宜提供し、高い目標を持たせ、最後まで第一志望を諦めさせない進路指導を貫き、生徒の希望の実現を支援する。 ②何事にも果敢に挑戦する態度を育む。	①生徒が進路の実現に向けて「振り返り」を行い「見通し」をもって学びを進めていくように支援し、データを示して前向きに取り組む助言等をきめ細かく行う。 ②学年集会や個人面談、授業等の様々な場面で根拠に基づいて励ます指導を行う。	①進路通信や進路説明会(本校職員)、進路講演会(予備校及び面談(担任)において、最新の必要な情報を迅速に提供できたか。 ①難関大学対策講座の受講継続率50%以上。 ②高い目標を諦めず、第一志望校または第一志望学部に進学した生徒が80%以上。	①全国模試の結果返却時には、生徒が「振り返り」を行い「見通し」をもって学びを進めていくように支援し、データを示して前向きに取り組む為の助言を各担任が行っている。 ①難関大学対策講座の受講継続率50%以上は達成できた。 ②学年集会や個人面談、ネット上の学年クラスルーム、授業等の様々な場面で根拠に基づいて励ます指導を行い生徒、保護者の信頼を得ている。	①基礎的な内容の復習の足りない生徒が多い事が課題である。授業改善と進路指導、生活支援の3つを関連させて、組織的な進路支援を行っていくことが必要である。教員の意識改革からスタートし、進路と教科指導を一体化した指導計画を立て、実行する。 ②粘り強く学習を続ける態度を身に付けさせる指導を、教科指導において全職員で行う。	○目標に合った校内評価を記載すること。難関大学対策講座の受講継続率50パーセント達成は素晴らしい。その生徒たちの進学実績を把握するなどして、課題把握や今後の方策を立てること。 ○浪人生が難関大学への合格を果たしているというのは「あきらめさせない指導」の成果であると考えて。入学時から継続して、果敢に挑戦する態度を育む支援を行うこと。	①「あきらめさせない指導」の成果が浪人生の難関大学の合格へ繋がった。浪人生と同様に、現役生にも、高い目標を持たせ、最後まで第一志望を諦めさせない進路指導を貫き、生徒の希望の実現を支援したい。 ②校内実施の全国模試の結果が出た後の実施者による生徒への振り返りが全ての模試で行えなかった。	校内実施の「全国模試」の結果が出た後の実施者による生徒への振り返りの回数を全学年、できるだけ増やしたい。校内職員からの振り返りと合わせて、実施者による振り返りを増やすことにより、最後まで、第一志望をあきらめないで、粘り強く学習を続ける態度をより、身に付けさせたい。
4	地域等との協働	①地域社会と積極的に関わり、社会と学校が連携し、安心安全な環境づくりに取り組む。	①地域との連携の重要性を教職員全体で共有し、積極的に地域に関わる意識を醸成する。	①地域連携の意義や具体的な方法、先進事例について職員が学ぶ機会を設ける。 ①生徒が地域の活動に参加する機会を増やす。	①地域等の活動に参加した生徒数のべ30名以上。 ①生徒の意識の変化をアンケート等で把握する。	①地域等の活動に参加した生徒数のべ約950名。 ①職員全体で災害時の業務確認を行い主体的に協議する姿が見られた。 ①防災教育において、地域をより強く意識する内容を企画し、アンケートを実施した。	①教科外活動でも資質能力の育成を図るアンケート調査を行い、地域への意識の変容をみとれたが、回答数が十分とはいえない。内容を精選しアンケート回答のための時間を十分確保する。	○地域の防災減災に関心を持つことから、将来は日本のあるいは世界的視点から防災減災を考える生徒に育ってほしいということを目指した取り組みは素晴らしい。 ○平塚の魅力発信に携わるなど、PDCAの経験が非認知能力の伸長につながるので、様々な校外活動参加を推進すること。	①地域等の活動に参加した生徒の割合は増加し、教育効果も実感できたがアンケート回答数が不足している。 ①アクティビティ型防災教育を地域と連携しながら行い、協働的に学ぶことで、支援される側からする側の視点を持つことで意識の変容がみられた。	①地域等外部との連携を進め、参加するのみでなく、地域のあり方を共に考える機会を作る。アンケート回答時間を確保する。 ①江南モデルとして継続できるようにマニュアル化を進める。
5	学校管理 学校運営	①教育公務員としての高い倫理観を保持し、健全な職場環境を作り、事故不祥事防止に努める。 ②すべての教員が学校教育目標を共有し達成に向けて協働して取り組む学校文化を継承する。 ③学校運営協議会をいかした学校運営を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。	①リスクマネジメントを強化するとともに、ワークライフバランスの推進に向けて、業務の精選・効率化を図る。 ②学校目標設定、校内評価を組織的に行う。 ③ホームページ等で本校の特色、教育活動や成果等の魅力、地域との連携状況を発信する広報活動を充実させる。	①不祥事ゼロプログラムを遂行する。 ①業務の精選とICTの活用による校務の効率化を推進する。 ②グループリーダーのマネジメントのもと、業務を組織的に行う。 ③ホームページ等を活用し、本校の魅力を小中学校等地域へ発信する内容を充実させ、回数増をめざす。 ③学校運営協議会を通じて地域からの要望を聴取し、双方の理解を深める。	①私費会計や成績処理等に係る過去のインシデント事例を共有し、改善策を講じ、未然防止を実現したか。 ①職員が心身ともに健全な状態を保てたか。 ②業務を担当者一人が抱えることなく、進捗状況をグループで把握し、組織的に取り組むことができたか。 ③学校説明会の参加者が増加したか。志願者数が増加したか。 ③学校関係者評価や有識者の評価を学校運営に生かすことができたか。	①私費会計や成績処理のインシデント事例を職員で共有し、二重チェック体制や成績入力時の確認プロセス強化など、業務の透明性と正確性を高める取組みを進めた。 ②グループリーダーがマネジメントを着実に実行している。 ③ホームページ・SNS(今年度は約110件)等やパンフレットにより、時期と情報の一括性を意識して発信した。 ③各説明会のアンケート結果から、時期・内容ともに高評価であった。 ③本校の魅力を探るアンケート(新入生対象)と広報活動の総括を行った。	①制度や手順の定着には継続的な研修と意識啓発が不可欠である。定期的な検証と改善を重ね、事故の未然防止を徹底していく。 ②作業環境の整備と業務のマニュアル化を行い、組織的な業務改善を進める。 ③本校の学校目標に沿った特色の打ち出し方を、全てのグループで連携して進める。	○事故防止会議や不祥事防止研修が効果的に行われている。グループリーダーがリーダーシップを発揮し、マネジメントを行っていることが素晴らしい。業務量管理や健康確保についても組織的に行うこと。 ○学校運営協議会で示された広報活動報告書の内容が優れている。新たな取り組みに挑戦しており、学校運営の活性化が期待できる。学校の魅力の発信は、生徒によるものが最も効果的である。何より「授業が面白い」というのが中学生の心を動かす。学校を上げての組織的な授業改善を行うこと。進学校としての魅力ある授業を構築していくこと。	①不祥事防止研修の形態が定着し、グループリーダーによるリスクマネジメントも浸透している。 ②オフィス改善によるレイアウト変更で職員室が広くなり、環境改善に結び付いた。 ③Instagramを開発するなど、SNSの発展拡充につとめたが、学校生活を具体的にイメージできる発信が更に必要である。 ③新入生対象アンケートと、1年間の広報活動の総括を実施し、入試倍率とともに分析した。職員と共有することで、学校全体で江南の魅力づくりに取り組む準備とした。	①業務におけるリスクを教員間で共有し、危機を発見した時には組織的に動けるように指示伝達経路を明確にする。 ②業務の効率化を行い、業務量の削減を行う。 ③SNSに投稿するプロセスを整理し、本校のさまざまな活動の活発さが伝わる発信を目指す。 ③広報活動から得た情報を共有し、学校全体で江南の魅力となる取組を進める体制を作る一助とする。